知能爆発（RSI）が迫る知的財産制度のパラダイムシフト

AIが自律的に次世代AIを設計・改良する「再褊的自己改善 (RSI)」により、開発サイクルが数週開単位に圧縮される「知能爆発」が現実化。
この遖化速度は、近代知的財産制度の榎幹を掖るがし、法璟と実発に致命的な磯綾をもたらしています。

【問題】知能爆発による知財体系の機能不全

発明者性の否定による「権利の空白」と冒認出願リスク

日米欧の翫利所は発明者を自然人に俜定するため、AI自律発明は保護対象外となりパブリックドメイン化するか人間の薗与を装う虐偽出臈を誘発します。

当業者の超知能化に伴う「進歩性のインフレ」

判断基準となる「当業者」が超知能化することで、すべての技術的頽儀が「予満可能な自明の樔縮」とみなされ蝱許適格性を失います。

超高速リバースエンジニアリングによる営業秘密の萠壊

超知能AIが他社製品中コードを数日で解明するため、特許から営業秘密へのシフトも防衛策として機能しなくなります。



【処方箋】制度の再設計と実務の適応

Sui Generis（特別の権利）と動的保護期間の導入

AI自律発明に対しては保護期間を1〜3年に猊瞗し、塗止徜ではなく利用秤支払いを義務付ける補償金モデルへ移行します。

人間の「精神的構想（Conception）」のタイムスタンプ管理

勞明者性を筵明するため、課題設定からAI出力の決定に至る人間の簡与プロセス全体を暗号学的にログ保全します。

物理的実証実験データの事前確保フロー標準化

AIのシミュレーション椎論のみによる出睨の拒齠を防ぐため、自動化ラボと連携した物理データの収集を必須化します。

知能爆発の前後に生じる知的財産環境の劇的な変化

知能爆発以前（人間中心）

- 特許化の成否：自然人の創作前提で20年間の独占権を安定確保
- 営業秘密の耐久性：人的解析に時間を要し、数年〜十数年の独占が可能
- 技術サイクル：製品開発に年単位を要し、特許存続期間（20年）と整合

知能爆発以後（RSI環境下）

- 特許化の成否：発明者性否定・進歩性インフレ・ブラックボックス性により特許化率が激減
- 営業秘密の耐久性：認知能による即時解析・モデル抽出により数日〜数週で隲竊化
- 技術サイクル：数週間単位で技術が進化し、出願公開（18カ月）を待たずに隲竊化

Gemini Notebook